

学校のプラットフォーム化

- ★生活相談
- ★就労支援
- ★虐待相談等

関係機関の支援ネットワーク

児童相談所、福祉事務所、発達障害者センター、ハローワーク、病院、サポートステーション 等

生活困窮者自立相談支援機関

教育委員会

地域

困窮家庭

親

病気 貧困 孤立

いじめ 学力不振 非行 不登校 虐待

予防!

子ども

地域活動の拠点

家庭教育支援拠点

学校支援地域本部

コミュニティ
スクール

学習支援

活用

調整

SSW

チーム
学校

福祉や教育
サービス情報
ストック

子どもの
居場所

SC

教員

学校

保健C

保育所

幼稚園

連携

プラットフォーム

学校: 問題発見、マネジメント

SSW: 事例対応、機関調整、活動調整

家庭教育支援チームの取組事例④

課題を抱える家庭に対する学校と連携した支援の仕組みづくり

◆地域人材からスクールソーシャルワーカーに！

～スクールソーシャルワーカーがリーダーの家庭教育支援チーム～

(和歌山県湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」)

【経 緯】

スーパーバイザーの指導のもと、子どもや家庭の支援に経験豊富な元保育所長が、研修を受けてスクールソーシャルワーカー(SSW)となり、このSSWをリーダーとした家庭教育支援チームを結成。

【構 成 員】

子育てサポーターリーダー、SSW、元教職員、民生児童委員、保育士、保健師等

【活動内容】

○就学前の幼児、小・中学生をもつ保護者向け情報誌を毎月発行。
町内を3地域に分け、小・中学生の全家庭を訪問し、早期対応。

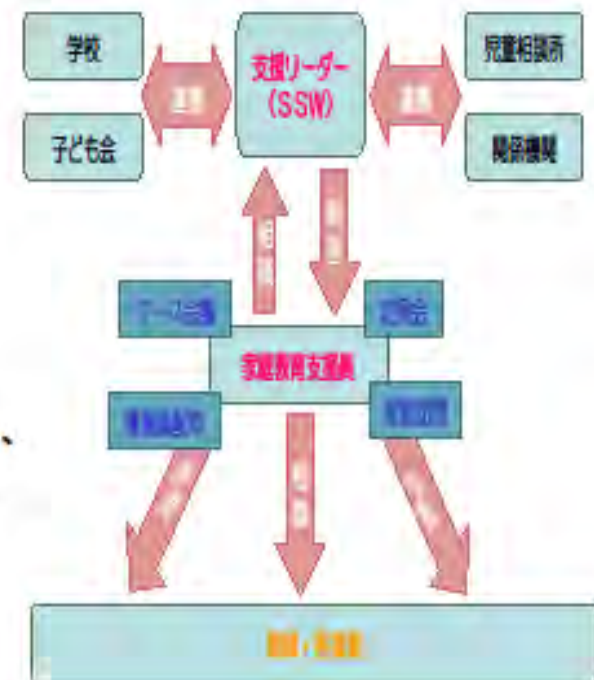
○保護者や学校からの相談に対して、学校・教育委員会・支援チームなどでケース会議を行い、効果的な支援方を検討。

【効 果】

※SSWや支援チーム員が学校と保護者のパイプ役として大きな役割を果たし、家庭訪問の際、学校での子どもの様子を保護者にさりげなく伝えることで、保護者の学校に対する理解が進み、信頼関係も築けるようになってきた。

※学校にとっても、子どもの家庭内での様子を知ることができ、生徒指導上の課題解決にもつながっている。

SSWと家庭教育支援員



中心の違いによる支援展開(同じ仕組みでも見る場所によって風景が変わる)

< 住民として地域中心型(厚労省・文科省事業を実施) >

連合町会や社会福祉協議会と連携して、拠点を地域に確保して、子育てひろば事業や放課後子ども教室、大人の寺子屋等実施。地域の人も巻き込んで支援(東住吉)。

< コミュニティスクール中心型 >

中学校内に地域ボランティアの拠点を置き、親支援、赤ちゃんふれあいプログラム、子どもの居場所など実施(横浜市)。親支援とSSWが繋がる仕組(福島大玉村、新潟聖籠町)。

< 学校地域本部中心型 >

放課後学び教室、土曜学校、通学合宿、登下校の見守り、絵本読み聞かせなどを通して子どもたちに放課後や土曜に居場所ができる。様々な地域ボラが子どもに関わり、子どもが落ち着く(就学援助70%台の学校)。なかで必要な事例がSSWへ(京都)。

< 家庭教育中心型 >

主体的にワークショップ方式で学ぶ親学をベースに位置づけて、3歳児健診や保育園、就学時健診で親学を計画、学びを継続していけるよう検討(島根県)。

< 校内居場所型 >

高校に高校生の居場所としてのカフェ(大阪府)、民間NPO団体と連携のもと有給就業体験事業(バイターン)を積極化した高校に図書館内カフェ(神奈川県)。相談支援・キャリア教育の面で成果を上げている。

< 要保護児童対策地域協議会型 >

中学校区ごとに設置。学校において様々な機関が集まって実施。学校が積極的になり関係機関と学校の連携がスムーズ(水巻町、西成区、柏原市等)。

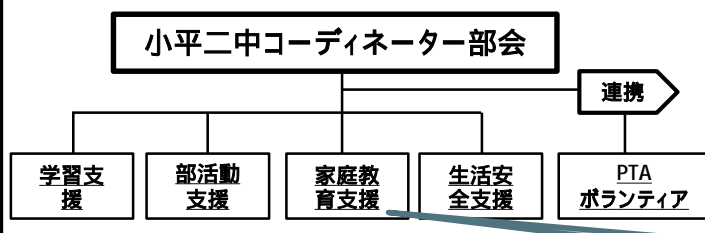
地域の人材による学校支援と家庭教育支援の連携した取組事例

出典) 中教審学校地域協働部会から加筆

小平市立小平第二中学校区(東京都)の取組概要

「小平地域教育サポート・ネット事業」として、学校支援ボランティア体制を導入し、「学習支援」、「部活動支援」、「家庭教育支援」、「生活安全支援」等の支援を実施。家庭教育支援では、先輩保護者の体験談を聞いたり、悩みを共有することで保護者の不安軽減に寄与するとともに、子供の進路等の情報共有を可能とする場の提供を実施。

小平二中 学校支援ボランティア体制



成果
学校支援地域本部事業の取組として、家庭教育支援の活動をすることで、保護者の不安軽減のみならず、学校・家庭・地域間の相互の情報共有の充実による相互理解の進展につながった。

湖南省立菩提寺小学校(滋賀県)の取組概要

ここでSSWと組織化しているところもある

「菩っこを育てる会」(学校支援地域本部事業)の取組の一つとして、家庭教育支援の取組を実施。家庭教育支援チーム「ほっとルーム」では、不登校傾向の児童の個別対応と保護者支援、保護者が悩みを共有できる場「ほっとサロン」の開設、保護者を対象とした勉強会や講演会の開催といった取組を実施。



「ほっとサロン」の様子

成果
家庭教育支援チームが、学校での子供の様子を保護者に伝えるとともに、保護者の悩みを共有し、学校側に橋渡しする取組を行うことで、地域による学校支援及び家庭教育支援の充実につながった。

- | | | |
|----|-----------------|------------------------|
| 学校 | ▶ 保護者への対応の充実 | } それぞれ
にとって
メリット |
| 家庭 | ▶ 子育ての悩みや不安の解消 | |
| 地域 | ▶ 地域人材の活用、地域の結束 | |

地域力の結集・人的ネットワークの構築により地域社会全体が活性化